

認定看護師教育基準カリキュラム
 (特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関)
 改正概要

分野	がん性疼痛看護		
分野特定年	1998 年	認定開始年	1999 年
カリキュラム検討期間	2018 年 6 月～2019 年 3 月		
【改正趣旨】			
<p>がん性疼痛看護分野の教育基準カリキュラムは 2012 年度の改正から 6 年が経過したため、見直しを行った。その結果、特殊な治療・病態に応じて対応できるよう単元に明示した。また、合同講義可能な単元について、他のがん関連分野と揃えて単元内容を整理した。その他、治療法の分類の表記や薬剤は最新の表記に変更した。</p>			
【主な改正箇所】※詳細は別紙「新旧対照表」参照			
<p>1. 目的 (p.1) 認定看護師の役割に沿って目標を明確にした。</p> <p>2. 期待される能力 (p.1) 他分野と揃え、表記を整理した。</p> <p>3. 専門基礎科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧の教科目 2「腫瘍学概論 1 (p.4)」について、単元 1) (3)「がん細胞の特徴」の括弧内に「ゲノム」を追加した。また、単元 3) (1)「診断方法」の括弧内に「遺伝子診断」を追加した。 ・旧の教科目 3「腫瘍学概論 2 (p.4)」は、単元 1) (2)「化学療法」の表記を「薬物療法」に変更し、(4)「免疫療法」を追加した。 ・旧の教科目 5「がんの医療サービスと社会的資源 (p.5)」は、単元 1)「がんの医療政策」の括弧内の内容を整理し、「がん対策基本法、がん対策推進基本計画、がん登録等の推進に関する法律」を追加した。 <p>4. 専門科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧の教科目 3「がん性疼痛に関する臨床薬理 (p.6)」は、単元 3)「オピオイド・ローション」の表記を「オピオイド・スイッチング」に変更した。また、単元 7)「麻薬取締法」の表記を「麻薬及び向精神薬取締法」へ変更した。 ・旧の教科目 4「がん性疼痛に対する治療と看護」について、単元 5)「化学療法と看護」の表記を「がん薬物療法と看護」に変更した。また、新たに単元 8)「患者の特性に応じたケア」を追加し、具体的内容を明示した。 			

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（がん性疼痛看護分野）

改正箇所：下線部

【目的・期待される能力】

旧	新	改正理由
<p>(目的)</p> <p>1. がん性疼痛を有する患者とその家族のQOL向上に向けて、水準の高い<u>看護を実践する能力</u>を育成する。</p> <p>2. がん性疼痛看護分野において、看護実践を通して他の看護職者に対して<u>指導・相談</u>ができる能力を育成する。</p>	<p>(目的)</p> <p>1. がん性疼痛を有する患者とその家族のQOL向上に向けて、<u>熟練する看護技術を用いて水準の高い看護実践ができる能力</u>を育成する。</p> <p>2. がん性疼痛看護分野において、看護実践を通して他の看護職者に対して<u>指導</u>ができる能力を育成する。</p> <p>3. がん性疼痛看護分野において、看護実践を通して他の看護職者に対して<u>相談対応・支援</u>ができる能力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旧1は、他分野と揃え文言を整理した。 ・旧2について、「指導」と「相談」の2つの役割が入っていたため、新の目的2と3に分けた。また、他分野と揃え文言を整理した。
<p>(期待される能力)</p> <p>1. がん性疼痛に関する最新の知識を持ち、がん性疼痛を有する患者の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな状態を総合的に判断し、個別적인ケアを計画、実施できる。</p> <p>2. がん性疼痛に用いる薬剤と薬理作用について理解し、それらを適切に使用し、効果を評価できる。</p> <p>3. がん性疼痛を有する患者・家族のセルフケア能力を高め、生活の質を維持・向上できるように、適切な看護援助を行うことができる。</p> <p>4. がん性疼痛を有する患者・家族の権利を擁護し、自己決定を尊重する看護を實踐できる。</p> <p>5. 病院等の組織や医療サービス提供システムを理解し、より質の高い医療を推進するため、<u>他職種と共働</u>し、チームの一員として役割を果たすことができる。</p> <p>6. がん性疼痛看護の實踐を通して、役割モデルを示し、看護職者への<u>指導・相談</u>を行うことができる。</p>	<p>(期待される能力)</p> <p>1. がん性疼痛に関する最新の知識を持ち、がん性疼痛を有する患者の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな状態を総合的に判断し、個別적인ケアを計画、実施できる。</p> <p>2. がん性疼痛に用いる薬剤と薬理作用について理解し、それらを適切に使用し、効果を評価できる。</p> <p>3. がん性疼痛を有する患者・家族のセルフケア能力を高め、生活の質を維持・向上できるように、適切な看護援助を行うことができる。</p> <p>4. がん性疼痛を有する患者・家族の権利を擁護し、自己決定を尊重する看護を實踐できる。</p> <p>5. 病院等の組織や医療サービス提供システムを理解し、より質の高い医療を推進するため、<u>多職種と協働</u>し、チームの一員として役割を果たすことができる。</p> <p>6. がん性疼痛看護の實踐を通して、役割モデルを示し、看護職者への<u>指導・相談対応</u>を行うことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旧5「他職種と共働し」は、看護職を含めた多くの職種との協働の意味を表すため、表記を変更した。 ・旧6の文言を整理した。

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（がん性疼痛看護分野）

改正箇所：下線部

【共通科目】

旧		新		改正理由
教科目	時間数 必修/選択	教科目	時間数 必修/選択	
1. 医療安全学：医療倫理	15（必修）	1. 医療安全学：医療倫理	15（必修）	2018年度共通科目改正のとおり変更した。
2. 医療安全学：医療安全管理	15（必修）	2. 医療安全学：医療安全管理	15（必修）	
3. 医療安全学：看護管理	15（必修）	3. 医療安全学：看護管理	15（必修）	
4. 臨床薬理学：薬理作用	15（必修）	4. 臨床薬理学：薬理作用	15（必修）	
5. チーム医療論（特定行為実践）	15（必修）	5. チーム医療論（特定行為実践）	15（必修）	
6. 相談（特定行為実践）	15（必修）	6. 相談（特定行為実践）	15（必修）	
7. 指導	15（必修）	7. 指導	15（必修）	
8. 医療情報論	15（必修）	8. 医療情報論	15（ <u>選択</u> ）	
9. 臨床薬理学：薬物動態	15（ <u>選択</u> ）	9. 臨床薬理学：薬物動態	15（ <u>選択</u> ）	
10. 臨床薬理学：薬物治療・管理	30（ <u>選択</u> ）	10. 臨床薬理学：薬物治療・管理	30（ <u>選択</u> ）	
11. 特定行為実践	<u>30</u> （ <u>選択</u> ）	11. 特定行為実践	<u>15</u> （ <u>選択</u> ）	
12. 対人関係	15（ <u>選択</u> ）	12. 対人関係	15（ <u>選択</u> ）	
13. 臨床病態生理学	<u>45</u> （ <u>選択</u> ）	13. 臨床病態生理学	<u>40</u> （ <u>選択</u> ）	
14. 臨床病態生理学演習	<u>15</u> （ <u>選択</u> ）	14. 臨床推論	45（ <u>選択</u> ）	
15. 臨床推論	45（ <u>選択</u> ）	15. 臨床推論：医療面接	15（ <u>選択</u> ）	
16. 臨床推論：医療面接	15（ <u>選択</u> ）	16. フィジカルアセスメント：基礎	30（ <u>選択</u> ）	
17. フィジカルアセスメント：基礎	30（ <u>選択</u> ）	17. フィジカルアセスメント：応用	30（ <u>選択</u> ）	
18. フィジカルアセスメント：応用	30（ <u>選択</u> ）	18. 疾病・臨床病態概論	<u>40</u> （ <u>選択</u> ）	
19. 疾病：臨床病態概論：5疾病	<u>30</u> （ <u>選択</u> ）	19. 疾病・臨床病態概論：状況別	<u>15</u> （ <u>選択</u> ）	
20. 疾病・臨床病態概論：その他の主要疾患	<u>30</u> （ <u>選択</u> ）			
21. 疾病・臨床病態概論：年齢別・状況別	<u>30</u> （ <u>選択</u> ）			
計	120（+360）	計	105（+305）	

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（がん性疼痛看護分野）

改正箇所：下線部

【専門基礎科目】 ※ゴシック体表記は、緩和ケアまたはがん化学療法看護との合同講義が可能な単元

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数 必修/選択	教科目のねらい	単元	
1. がん看護学総論	30	がん看護の専門性とがん患者・家族の特徴を理解する。	1) がん看護の専門性、発展と課題 2) がん医療チームにおける看護の役割 (1) 他職種の専門性の理解 (2) 医療チームにおけるコミュニケーション技術 (3) 医療チームにおける看護師の役割 3) がん患者・家族の特徴 (身体・心理・社会的・スピリチュアルな特徴、トータルペイン、がん患者の QOL、がん患者の家族、サバイバーシップなど) 4) がん患者を理解するために必要な概念 (セルフケア、ストレス・コーピング、危機理論、障害受容過程、サバイバーシップとヘルスケアグループ、保健行動モデル、家族看護理論など) 5) がん患者とリハビリテーション (1) 治療に伴うリハビリテーション (2) 機能維持のためのリハビリテーション 6) がん患者とヘルスプロモーション 7) 緩和ケア概論 (1) ホスピス・緩和ケアの歴史と理念、現状と展望 (2) トータルペインの概念と全人的な理解	1. がん看護学総論	30 (必修)	がん看護の専門性とがん患者・家族の特徴を理解する。	1) がん看護の専門性、発展と課題 2) がん医療チームにおける看護の役割 (1) 他職種の専門性の理解 (2) 医療チームにおけるコミュニケーション技術 (3) 医療チームにおける看護師の役割 3) がん患者・家族の特徴 (身体・心理・社会的・スピリチュアルな特徴、トータルペイン、がん患者の QOL、がん患者の家族、サバイバーシップ等) 4) がん患者を理解するために必要な概念 (セルフケア、ストレス・コーピング、危機理論、障害受容過程、サバイバーシップとヘルスケアグループ、保健行動モデル、家族看護理論等) 5) がん患者とリハビリテーション (1) 治療に伴うリハビリテーション (2) 機能維持のためのリハビリテーション 6) がん患者とヘルスプロモーション 7) 緩和ケア概論 (1) ホスピス・緩和ケアの歴史と理念、現状と展望 (2) トータルペインの概念と全人的な理解	

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（がん性疼痛看護分野）

改正箇所：下線部

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数 必修/選択	教科目のねらい	単元	
2. 腫瘍学概論 1	15	がん看護実践に必要ながんに関する医学知識を理解する。	1) がん細胞の特徴 (1) 細胞の構造 (核、細胞質、細胞膜) (2) 細胞の発育過程 (分裂、増殖、アポトーシス、シグナル伝達など) (3) がん細胞の特徴 (発生のメカニズム、増殖、浸潤、転移) 2) がんの疫学 (1) 統計 (罹患率、死亡率) (2) がん登録システム 3) がんの診断 (1) 診断方法 (画像、腫瘍マーカー、血液検査、病理など) 4) がんの予防と検診 (1) がんのリスク因子 (2) がん検診の有効性	2. 腫瘍学概論 1	15 (必修)	がん看護実践に必要ながんに関する医学知識を理解する。	1) がん細胞の特徴 (1) 細胞の構造 (核、細胞質、細胞膜) (2) 細胞の発育過程 (分裂、増殖、アポトーシス、シグナル伝達等) (3) がん細胞の特徴 (発生のメカニズム、増殖、浸潤、転移、 <u>ゲノム</u>) 2) がんの疫学 (1) 統計 (罹患率、死亡率) (2) がん登録システム 3) がんの診断 (1) 診断方法 (画像、腫瘍マーカー、血液検査、 <u>病理、遺伝子診断等</u>) 4) がんの予防と検診 (1) がんのリスク因子 (2) がん検診の有効性	・新1) (3)、3) (1) は第3期がん対策推進基本計画に基づき、追加した。
3. 腫瘍学概論 2	15		1) がんの集学的治療 (1) 手術療法 (2) 化学療法 (3) 放射線療法 2) 各種疾患の特徴 (乳がん、肺がん、消化器がん、血液がんなど)	3. 腫瘍学概論 2	15 (必修)	がん看護実践に必要ながんに関する医学知識を理解する。	1) がんの集学的治療 (1) 手術療法 (2) 薬物療法 (3) 放射線療法 (4) <u>免疫療法</u> 2) 各種疾患の特徴 (乳がん、肺がん、消化器がん、血液がん等)	・新1) 第3期がん対策推進基本計画に基づき、(2) の表記を変更し、(4) を追加した。
4. ヘルスアセスメント	15	がん看護実践に必要なヘルスアセスメントの方法を理解する。	1) アセスメントプロセス 2) フィジカルアセスメント (1) 呼吸機能 (2) 循環機能 (3) 脳・神経機能 (4) 栄養代謝状態 (5) 感覚・運動機能 3) 心理・社会的アセスメント 4) 家族のアセスメント	4. ヘルスアセスメント	15 (必修)	がん看護実践に必要なヘルスアセスメントの方法を理解する。	1) アセスメントプロセス 2) フィジカルアセスメント (1) 呼吸機能 (2) 循環機能 (3) 脳・神経機能 (4) 栄養代謝状態 (5) 感覚・運動機能 3) 心理・社会的アセスメント 4) 家族のアセスメント	

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（がん性疼痛看護分野）

改正箇所：下線部

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数 必修/選択	教科目のねらい	単元	
5. がんの医療サービスと社会的資源	15	がん患者の療養の場の特性や在宅療養のために必要な基礎知識について理解する。	1) がんの医療政策 （診療報酬、<u>がん診療連携拠点病院、相談支援センター</u>など） 2) がん患者と家族が活用できる社会資源 （高額療養費制度、<u>在宅悪性腫瘍指導管理料、在宅酸素療法</u>など） 3) がんと医療経済 （治療費、就労問題など） 4) 在宅医療の仕組みと法的枠組み 5) 在宅医療を支える職種間の連携 6) 在宅療養するがん患者と家族を支援する看護師の役割	5. がんの医療サービスと社会的資源	15 (必修)	がん患者の療養の場の特性や在宅療養のために必要な基礎知識について理解する。	1) がんの医療政策 （<u>がん対策基本法、がん対策推進基本計画、がん登録等の推進に関する法律、診療報酬</u>等） 2) がん患者と家族が活用できる社会資源 （高額療養費制度、在宅酸素療法等） 3) がんと医療経済 （治療費、就労問題等） 4) 在宅医療の仕組みと法的枠組み 5) 在宅医療を支える職種間の連携 6) 在宅療養するがん患者と家族を支援する看護師の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・旧1) は、他のがん関連分野と合わせ、括弧内に「がん対策基本法」「がん対策基本推進計画」「がん登録等の推進に関する法律」を追加した。 ・旧1) の括弧内のがん診療連携拠点病院、相談支援センターは、がん対策推進基本計画に含まれるため削除した。 ・旧2) 括弧内の「在宅悪性腫瘍指導管理料」は、診療報酬の項目で1) に含まれるため削除した。
計	90			計	90			

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（がん性疼痛看護分野）

改正箇所：下線部

【専門科目】

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数 必修/選択	教科目のねらい	単元	
1. がん性疼痛看護概論	15	がん性疼痛を有する患者の特徴を踏まえ、患者・家族の生活の質を維持・向上するための認定看護師の役割を理解する。	1) がん性疼痛を有する患者の特徴 2) がん性疼痛を有する患者への看護の役割 3) がん性疼痛看護認定看護師の役割 (1) がん性疼痛看護認定看護師の役割と機能 (2) 役割と機能を発揮するための姿勢や手法	1. がん性疼痛看護概論	15 (必修)	がん性疼痛を有する患者の特徴を踏まえ、患者・家族の生活の質を維持・向上するための認定看護師の役割を理解する。	1) がん性疼痛を有する患者の特徴 2) がん性疼痛を有する患者への看護の役割 3) がん性疼痛看護認定看護師の役割 (1) がん性疼痛看護認定看護師の役割と機能 (2) 役割と機能を発揮するための姿勢や手法	
2. がん性疼痛の病態生理	30	がん性疼痛の病態生理を理解する。	1) 痛みの生理学 (1) 感覚の中での痛覚の意義 (2) 神経系の解剖生理 (3) デルマトーム (4) 感覚受容器の中の伝導路 (5) 鎮痛機構 (6) 精神状態と痛み (7) 痛みと免疫 (8) 痛みの悪循環 2) 痛みのメカニズム (1) 急性疼痛 (2) 慢性疼痛 (3) 侵害受容性疼痛 (4) 神経障害性疼痛 3) がん性疼痛の原因、分類、特徴 (1) がん性疼痛の分類・特徴 (2) 病態に関連した痛みの特徴 (3) 骨転移痛 (4) がん治療に関連した痛みの特徴	2. がん性疼痛の病態生理	30 (必修)	がん性疼痛の病態生理を理解する。	1) 痛みの生理学 (1) 感覚の中での痛覚の意義 (2) 神経系の解剖生理 (3) デルマトーム (4) 感覚受容器の中の伝導路 (5) 鎮痛機構 (6) 精神状態と痛み (7) 痛みと免疫 (8) 痛みの悪循環 2) 痛みのメカニズム (1) 急性疼痛 (2) 慢性疼痛 (3) 侵害受容性疼痛 (4) 神経障害性疼痛 3) がん性疼痛の原因、分類、特徴 (1) がん性疼痛の分類・特徴 (2) 病態に関連した痛みの特徴 (3) 骨転移痛 (4) がん治療に関連した痛みの特徴	
3. がん性疼痛に関する臨床薬理	30	がん性疼痛の薬物療法に用いる薬剤の薬理的知識と薬剤管理方法を理解する。	1) オピオイド・NSAIDs の体内動態、薬効・毒性 2) 鎮痛薬の副作用に使用する薬剤 3) オピオイド・ <u>ローテーション</u> 4) 鎮痛補助薬 5) その他の疼痛緩和に使用する薬剤 6) 鎮痛薬の使用法 (経口、経直腸、経皮、皮下・経静脈持続注射、硬膜外、くも膜下) 7) 麻薬取締法に関する規定	3. がん性疼痛に関する臨床薬理	30 (必修)	がん性疼痛の薬物療法に用いる薬剤の薬理的知識と薬剤管理方法を理解する。	1) オピオイド・NSAIDs の体内動態、薬効・毒性 2) 鎮痛薬の副作用に使用する薬剤 3) オピオイド・ <u>スイッチング</u> 4) 鎮痛補助薬 5) その他の疼痛緩和に使用する薬剤 6) 鎮痛薬の使用法 (経口、経直腸、経皮、皮下・経静脈持続注射、硬膜外、くも膜下) 7) 麻薬及び向精神薬取締法に関する規定	・新3) 最新の表記に修正した。 ・新7) 法改正に基づき、表記を変更した。

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（がん性疼痛看護分野）

改正箇所：下線部

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数 必修/選択	教科目のねらい	単元	
4. がん性疼痛に対する治療と看護	45	がん性疼痛に対する様々な治療方法の特徴と看護を理解する。	1) 薬物治療と看護 (1) WHO方式 (2) 疼痛緩和治療の考え方 (3) 鎮痛薬使用の原則 (4) 鎮痛薬の副作用対策 (5) 治療の実際 (6) 治療を受ける患者への看護 2) がん性疼痛緩和における非薬物的アプローチ (1) 非薬物的アプローチの重要性 (2) 非薬物的アプローチの方法と選択 a. マッサージ・リラクゼーション・電法・ポジショニングの実際 b. リンパマッサージ等の適応と禁忌の理解 3) 神経ブロックと看護 (1) 治療の適応、方法、実際 (2) 治療を受ける患者への看護 4) がん性疼痛に対する放射線療法と看護 (1) 治療の適応、方法、実際 (2) 治療を受ける患者への看護 5) <u>化学療法</u> と看護 (1) 治療の適応、方法、実際 (2) 治療を受ける患者への看護 6) 手術療法と看護 (1) 治療の適応、方法、実際 (2) 治療を受ける患者への看護 7) その他の治療（東洋医学、代替・補完療法他）	4. がん性疼痛に対する治療と看護	45 (必修)	がん性疼痛に対する様々な治療方法の特徴と看護を理解する。 1) 薬物治療と看護 (1) WHO方式 (2) 疼痛緩和治療の考え方 (3) 鎮痛薬使用の原則 (4) 鎮痛薬の副作用対策 (5) 治療の実際 (6) 治療を受ける患者への看護 2) がん性疼痛緩和における非薬物的アプローチ (1) 非薬物的アプローチの重要性 (2) 非薬物的アプローチの方法と選択 a. マッサージ・リラクゼーション・電法・ポジショニングの実際 b. リンパマッサージ等の適応と禁忌の理解 3) 神経ブロックと看護 (1) 治療の適応、方法、実際 (2) 治療を受ける患者への看護 4) がん性疼痛に対する放射線療法と看護 (1) 治療の適応、方法、実際 (2) 治療を受ける患者への看護 5) <u>がん薬物療法</u> と看護 (1) 治療の適応、方法、実際 (2) 治療を受ける患者への看護 6) 手術療法と看護 (1) 治療の適応、方法、実際 (2) 治療を受ける患者への看護 7) その他の治療（東洋医学、代替・補完療法等） 8) <u>患者の特性に応じたケア</u> ・年齢による特性（小児、AYA世代、高齢者） ・特殊な治療・病態（透析治療、フレイル、臨死期等）	・新5) 第3期がん対策推進基本計画に基づき、表記を変更した。 ・新8) 第3期がん対策推進基本計画に応じて追加した。	

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（がん性疼痛看護分野）

改正箇所：下線部

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数 必修/選択	教科目のねらい	単元	
5. がん性疼痛を有する患者のアセスメントと計画立案	30	がん性疼痛を有する患者に対する根拠に基づく包括的なアセスメントと計画立案・評価の方法を習得する。	1) がん性疼痛を有する患者の初期アセスメント (1) 痛みのアセスメント (2) 副作用のアセスメント (3) 全人的アセスメント 2) 継続的アセスメント (1) 痛みのアセスメント (2) 副作用のアセスメント (3) 全人的アセスメント 3) がん性疼痛以外の症状のアセスメントとそのマネジメント方法（呼吸困難、消化器症状、精神症状、全身倦怠感等） 4) がん性疼痛緩和に関わる倫理的問題のアセスメントと問題解決方法 (1) がん医療における倫理的問題 (2) がん性疼痛緩和に関わる倫理的問題と看護師の役割 (3) 倫理的問題のアセスメントと問題解決方法 5) 計画立案と評価の方法	5. がん性疼痛を有する患者のアセスメントと計画立案	30 (必修)	がん性疼痛を有する患者に対する根拠に基づく包括的なアセスメントと計画立案・評価の方法を習得する。	1) がん性疼痛を有する患者の初期アセスメント (1) 痛みのアセスメント (2) 副作用のアセスメント (3) 全人的アセスメント 2) 継続的アセスメント (1) 痛みのアセスメント (2) 副作用のアセスメント (3) 全人的アセスメント 3) がん性疼痛以外の症状のアセスメントとそのマネジメント方法（呼吸困難、消化器症状、精神症状、全身倦怠感等） 4) がん性疼痛緩和に関わる倫理的問題のアセスメントと問題解決方法 (1) がん医療における倫理的問題 (2) がん性疼痛緩和に関わる倫理的問題と看護師の役割 (3) 倫理的問題のアセスメントと問題解決方法 5) 計画立案と評価の方法	
6. がん性疼痛を有する患者・家族への心理・社会的援助	15	がん性疼痛を有する患者が心身の機能を維持し、より自分らしく快適な生活を送ることを多側面から支援する方法を理解する。	1) がん性疼痛を有する患者への心理・社会的援助 (不安、抑うつ、怒り等) 2) がん性疼痛を有する患者の家族への援助 (1) 家族看護の概念 (2) 家族システムのアセスメントと援助方法	6. がん性疼痛を有する患者・家族への心理・社会的援助	15 (必修)	がん性疼痛を有する患者が心身の機能を維持し、より自分らしく快適な生活を送ることを多側面から支援する方法を理解する。	1) がん性疼痛を有する患者への心理・社会的援助 (不安、抑うつ、怒り等) 2) がん性疼痛を有する患者の家族への援助 (1) 家族看護の概念 (2) 家族システムのアセスメントと援助方法	
7. がん性疼痛を有する患者・家族へのセルフケア支援	15	がん性疼痛を有する患者・家族へのセルフケア支援方法を習得する。	1) セルフケア理論にそった患者・家族のアセスメント 2) 療養の場に応じたセルフケア支援計画の立案 3) 療養の場に応じたセルフケア支援・指導の方法 4) 患者・家族への教育的アプローチ (1) がん患者・家族の学習ニーズ (2) 教育計画 (3) 教育方法 (4) 教育評価	7. がん性疼痛を有する患者・家族へのセルフケア支援	15 (必修)	がん性疼痛を有する患者・家族へのセルフケア支援方法を習得する。	1) セルフケア理論にそった患者・家族のアセスメント 2) 療養の場に応じたセルフケア支援計画の立案 3) 療養の場に応じたセルフケア支援・指導の方法 4) 患者・家族への教育的アプローチ (1) がん患者・家族の学習ニーズ (2) 教育計画 (3) 教育方法 (4) 教育評価	
計	180			計	180			

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（がん性疼痛看護分野）

改正箇所：下線部

【学内演習】

現行				改正案				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
					必修/選択			
演習	60	講義で学んだ専門的知識・技術を深めるとともに、それらを統合し、水準の高い看護を実践するための能力を養う。	1) がん性疼痛を有する患者のアセスメントと計画立案演習 2) がん性疼痛を有する患者への非薬物的アプローチ演習 3) がん性疼痛を有する患者へのセルフケア支援演習 4) がん性疼痛患者に対する倫理的問題解決演習 5) 総合課題学習（ケースセミナー等）	演習	60 (必修)	講義で学んだ専門的知識・技術を深めるとともに、それらを統合し、水準の高い看護を実践するための能力を養う。	1) がん性疼痛を有する患者のアセスメントと計画立案演習 2) がん性疼痛を有する患者への非薬物的アプローチ演習 3) がん性疼痛を有する患者へのセルフケア支援演習 4) がん性疼痛患者に対する倫理的問題解決演習 5) 総合課題学習（ケースセミナー等）	
計	60			計	60			

【臨地実習】

現行				改正案				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
					必修/選択			
臨地実習	180	講義・演習で学んだ専門的知識・技術を統合し、がん性疼痛看護認定看護師に必要な能力（水準の高い看護実践・指導・相談）を養う。	1) がん性疼痛緩和における看護実践力を高める *2 事例以上の看護を展開する *少なくとも 1 事例以上については系統的に評価する 2) 看護スタッフへの指導を通して、がん性疼痛緩和における効果的な指導能力を高める 3) がん性疼痛看護認定看護師等の相談場面の見学を通して、相談力を習得する	臨地実習	180 (必修)	講義・演習で学んだ専門的知識・技術を統合し、がん性疼痛看護認定看護師に必要な能力（水準の高い看護実践・指導・相談）を養う。	1) がん性疼痛緩和における看護実践力を高める *2 事例以上の看護を展開する *少なくとも 1 事例以上については系統的に評価する 2) 看護スタッフへの指導を通して、がん性疼痛緩和における効果的な指導能力を高める 3) がん性疼痛看護認定看護師等の相談場面の見学を通して、相談力を習得する	
計	180			計	180			

共通科目 120 時間（+360 時間）
 専門基礎科目 90 時間
 専門科目 180 時間
 学内演習 60 時間
 臨地実習 180 時間
 総時間 630 時間（+360 時間）

共通科目 105 時間（+305 時間）
 専門基礎科目 90 時間
 専門科目 180 時間
 学内演習 60 時間
 臨地実習 180 時間
 総時間 615 時間（+305 時間）